

学校への信頼と家庭でのフォローを得るための……

保護者会を成功させるポイント

1 保護者会の目的と役割を明確に

自主性を十分に発揮することができず、自分自身の方向性を定める力が弱い生徒が少なくない今、学校での指導だけでなく、保護者と連携して生徒指導が求められている。その分、学校と保護者をつなぐ具体的な場となる保護者会の重要性がより増しているようだ。

それでは、保護者会を成功させて、学校への信頼と家庭でのフォローを得るためには、教師はどのような姿勢で臨み、保護者になにを伝え、どのような点に注意した取り組みとすべきなのだろうか。ここでは10のポイントに分けて考えてみる。

1 point

保護者会の重要性は以前より増している。背景として、少子化でその生徒が親にとって「初めての子」のケースが多く、親は自信を持ったアドバイスができない、親子の会話が減って（特に進路について）本音の話をしにくい、といったことがある。子どもに対する家庭の影響力が減った結果、学校・保護者が協力して生徒に接する必要性が出てきており、密接な連携が求められている。

保護者の多くは、自分の子どもに対して漠然とした不安を持っている。しかも、学校の中での様子が見えないため、「あの子は学校でちゃんとやっているのか」といった気持ちになりがちだ。そうした思いは、「学校は子どもに対してどういう指導をしているのか」「学校はなにをしてくれるのか」という不安疑問に結びつきやすい。保護者会は、不安になりがちな保護者に学校・学年の方針、姿勢を伝え、理解を深めても

らう重要な場として位置づけられる。

教師は全体会・クラス会の一連の流れの中で、保護者の不安・疑問を解消するとともに、学校（担任）と保護者・保護者同士のコミュニケーションを深め、お互いの信頼感を高めていくことが大切である。

学校と家庭の連携の重要性を伝える
学校の方針を伝える
保護者間の交流を大切に

2 全体会・クラス会を差別化する

2 point

学年全体の保護者を対象とした全体会とクラス会とは、その目的と役割が異なる。全体会の役割は、一つは保護者に社会環境・進学環境などの客観的情報を提供し、子どもを取り巻く状況について理解を深めてもらうことにある。保護者は自分の経験（自分の高校時代、生徒の兄・姉の高校時代）の延長線上で現状を判断する傾向がときに見られる。また、マスコミ報道の影響で大学入試などについて、誤った認識をしている部分もある。そうしたギャップを埋めるため、正しい情報を提供し、現状を理解してもらう。

全体会のもう一つの役割は、学校・学年の教育方針・姿勢を伝え、保護者の学校に対する不安を解消し、学校への信頼感を高めてもらうことにある。方針は明確なものを打ち出し、わかりやすく伝えるようにする。「学校の学習を中心とした生活習慣を身につけさせる」「進路学習を積極的に行わせる」「部活を重視し、人間的成長を促す」など、はっきりした目標があれば、保護者の学校に対する信頼感は増す。

3 point

3 保護者を支援する姿勢を貫く

方針には3年間を見とおした長期的方針と、学年・学期ごとの短期的方針が考えられる。その学年・学期に見合った方針を立て、保護者に伝えていくことになる。

一方、クラス会は、教師と保護者・保護者同士のコミュニケーションの場である。保護者は、自分が抱える不安（親として初めて経験することの不安、進路・進学に対する漠然とした不安）を自分だけの不安だと思いがちだ。保護者同士が話し合うことで、そうした悩みや不安は実は多くの保護者に共通のものであることに気づき、安心感を持つとともに、保護者同士の一体感が生まれる。このことが持つ意義は非常に大きい。

したがって、クラス会は保護者が中心の場と心得て、担任が主導権をとりすぎることや、保護者同士に話し合ってもらうことに主眼を置きたい。

教育環境への理解を全体会で
長期、短期二つの方針を全体会で
クラス会は保護者が中心の場に

保護者会で教師が保護者に説明したり、話したりするときの目線の高さは「初めて高校生を持つ保護者」のレベルに設定する。事実、少子化でそうした保護者の割合が高いし、たとえそうでなくても上の兄や姉のケースをきくと覚えていいるとは限らない。「こんなことは保護者ならだれでも知っているのではないか。保護者会で改めていうまでもないのでは……」というようなことも、実際は保護者は知らなかったり、理解が不十分だったりすることも少なくない。

重要なことは何度でも繰り返し説明したい。繰り返し伝えることで、保護者にはその事項をしつかり理解してもらえらる。また、保護者みんなが以前行われた保護者会に出席していたとは限らない。前回話したことで、重要なポイントには改めて触れておくことも必要だろう。そして、同じ内容のことで1年生、2年生とそれぞれ学年・学期の段階に合わせて話すようにしたい。

また、クラス会ではできるだけ生徒

をほめたい。だれでも自分の子どもをほめてもらえばうれしいものである。そして、ほめられれば子どももや学校との関係に保護者は前向きになり、学校への信頼感も増す。例えば、「このクラスは、校内の球技大会で3位になったんです。みんな一生懸命に練習していたんですよ」といったごく小さなことでまわらない。同時に、保護者には「子どもをほめることの大切さ」を伝えたい。

そして、子どものことについて困ったときや悩んでいるときは、気軽に学校に相談するように伝える。わざわざ相談のために学校を訪れるのは保護者にとっては気おくれすることなので、まず担任に電話をするように促す。電話で解決することもあるだろうし、難しい問題の場合でも、電話で一度話をすれば学校に足を向けやすくなるはずだ。

初めて高校生を持った親の目線で
重要なことは何度でも繰り返し伝える
小さなことでも生徒をほめる

5 学校の考えがわかる資料を

4 事前準備、事後フォローを行う

point

保護者会を充実させるには、事前の準備、事後のフォローが欠かせない。事前準備としては、今度の保護者会でどんな内容を伝え、話し合おうか、学年会である程度方向性を固めておく。保護者会実施の案内の中に「当日、とり上げてもらいたい項目」といった記入欄を作り、保護者からの提案が全体会で扱つべき内容なら事前の学年会で議題にする。クラス会で扱つべき内容なら、当日クラス会で話し合う。

point

クラス会では教師の「しゃべりっ放し」にならないように気をつけたい。保護者の思いを学校に伝える時間がないうと、保護者に不完全燃焼な感覚が残る。保護者の言葉に耳を傾け、保護者・学校がともに生徒を支えていくという姿勢を見せるよう心がけたい。

事後のフォローは、保護者のためのフォローと教師自身のためのフォローの二つがある。前者は欠席者へ当日使用した資料の配付、「進路だより」を使つての報告などがある。また、教師自

身にとつての事後フォローとしては、クラス会で話題になった項目について学年会で話し合い、今後の指導方針の参考にするといったことが考えられる。また、これによって保護者のニーズを広く知ることができるとはすだ。

保護者会実施のための流れ

事前	内容の検討・立案 保護者への連絡	・一方的に説明するだけでなく、当日保護者と話し合うことのできるスケジュールを。 ・生徒を取り巻く社会環境、学校での生徒の様子など、保護者が知たがっている情報を提供できるように。 ・学年会で保護者会の方向性を確認する。 ・資料はできるだけ事前に配付する。
当日	説明 保護者との話し合い	・配付した資料に付加価値をつける説明を。 ・資料を棒読みするのではなく、新しい視点、情報をつけ加える。 ・クラス会では教師のしゃべりっ放しに注意。
事後	欠席した保護者へのフォロー 教師同士の話し合い	・保護者会の議題を「進路だより」で紹介。 ・話題になった問題を学年会で話し合う。

事前に保護者の要望を聞く
教師のしゃべりっ放しにしない
事後に教師間で課題を共有する

6 進路指導への理解を得る

point

全体会では、学校・学年の進路指導の方針を理解してもらつ。進路指導を受験指導ととらえている保護者もいるので、進路指導は生徒が充実した人生を送るために、将来の夢、興味・関心就きたい職業という視点からスタートすることを説明する。そして、進路指導は1年次から始まることを伝え、保護者の進路指導への関心を高める。さらに、例えば1年次なら自己理解・職業研究、2年次なら学問研究というその学年の指導の流れを理解してもらつ。その流れを経て、最終的に志望校決定に行き着くことを説明する。

また、進路選択は親と子がともに考えるべきものであることを特に強調したい。勉強（特に成績）に関しては保護者が口を出さず、ときに反発を呼びながら進路については親は人生の先輩でありアドバイザーであることが多い。保護者には、将来なにになりたいかは自分で決めて道を切り開くのが当然と考える人もいるだろうが、今の生徒には学校や家庭が進路を考える機会を意図的に与えてやることも必要だということ

全体会

説明する。つまり、進路選択については学校や親からの一定の方向づけが求められ、特に保護者のかかわりが大きな意味を持つことを理解してもらつ。

進路に関して「子どもの自主性を尊重する」という保護者がいるが、単なる放任主義であることも少なくない。子どもが自分の将来を真剣に考え、自分にふさわしい選択ができるよう、進路選択の節目節目に保護者からアドバイスしてもらつよう願っている。

ただし、アドバイザーを越えた押しつけになってしまう。進路に限らず、親が自分の価値観を子どもに押しつけると、子どもには選択肢がなくなり、うちもさつちもいかなくなってしまふ。「最終的な判断は任せるが、親としてはこの思ひ」という形のアドバイザーが大切で、子どもの希望を尊重しつつ、親としての意見を述べる、ということの重要性を知ってもらつ。

進路選択の流れを解説する
子どもとともに考えてもらつ
子どもの希望を尊重してもらつ

point

保護者会で渡す資料は、保護者が高校生活・学習・進路に対する理解を深めるための大きな役割を担っている。充実した資料をもらえば、「保護者会に出たかいいがあった」と、保護者は高校に対する信頼感を高める。

保護者が喜ぶ資料とは、単にデータだけを並べたものに終わらず、学校独自の考えや方針、そしてその学校の生徒像が盛り込まれた資料。そこからは学校が生徒を指導する姿勢、意図、熱意、気持ちなどが自ずと伝わる。内容面では、学校における生徒の生活習慣・学習状況、生徒を取り巻く社会環境、高校での指導のスケジュール、卒業生の進路概況、大学入試のしくみなど、その学年・学期にふさわしいものを取り上げる。生活習慣・学習状況調査などの集計からまとめた資料は、保護者の関心を引くものになるだろう。また、卒業生の合格体験談などを盛り込むと、よりリアルなものになる。

資料は、事前に保護者に読んでおいてもらいたいものについては、前もって配付しておくといい。そして、保護

者会の場ではただ棒読みするだけでなく、「自分の言葉」で資料を説明し、内容を膨らませて付加価値をつけ、保護者が理解しにくいところを特に解説するようにしたい。

保護者会の資料に盛り込む項目例

1年生	・学校行事発表 （3年間の行事を時系列に並べるだけでなくその目的も併記） ・生徒の学習状況調査結果 （高校の抱える代表的な悩みなどを紹介） ・生徒の生活習慣調査結果 （勉強のしかたや家庭学習時間の平均などを紹介） ・勉強と部活を両立した生徒の体験談 ・家庭教育や親の役割の重要性を説いた読み物 ・模試などの成績の見方 ・2年生
2年生	・進路選択の考え方 （興味・関心やなりたい職業から、生徒に学部・学科・大学を考えさせる流れを解説） ・志望者の多い学部・学科の内容の簡単な紹介 ・志望者の多い大学の入試動向 ・学習状況・生活習慣調査結果 ・3年生
3年生	・進路選択を守るうえで注意点 ・卒業生の合格体験談 ・大学入学後の費用・学費・生活費 ・日本社会などの奨学金の情報 ・受験関係の子どもとの接し方 ・卒業生の保護者の体験談 （子どもとどう接したが、親としてどんな支援ができるかなどを語ってもらったもの）

資料に学校の考えを盛り込む
資料はできるだけ事前に配付
棒読みせず、自分の言葉で説明

7 学習への理解を深めてもらつ

point

1年次では中学校と高校における学習面の違いを知ってもらつ。高校の授業は中学校に比べて進度が格段に速く、しかも内容が難しくなること、したがって、中学校では授業を聞くだけでいい成績がとれても、高校ではそのやり方が通用しないこと、予習・復習をしないと授業についていけないことを伝え、主体的に勉強することの重要性を理解してもらつ。

中には「授業が難しくなるのなら、塾に行かせた方がいいのでは」という保護者も出てくる。高校の学習で大切なのは、自分の頭を使って考えるということ。それには自主的に机に向かい、自分で考える時間が最も必要となる。塾もただ通っただけでなく、自学自習をして初めて学んだことが身につく。学校の予習と塾の予習の両方ができるのか、どちらも中途半端にならないかを考慮して判断するよう注意を促す。

また、高校には同じ学力層の生徒が集まることもあるが、中学校で成績上位だった生徒が、生まれて初めてというような低い成績をとることがある。

全体会

それが与えるショックは生徒にも親にも大きい。1年次の初めに、学校の成績は相対的であり、学校の成績順位は大きく変動することを説明しておく。そして、勉強は毎日の積み重ねであり、地道に予習・復習を続けられれば、順位も実力も上がることを理解してもらつ。卒業生の例を挙げて、山あり谷ありのストーリーを具体的に話すのもいい。

子どもの成績が悪いと「もっと勉強しなさい」と、つい親は口を出したくなるが、そういうたぐいのことはいいすぎないようお願いします。「勉強しなさい」は、生徒が最も親にいわれたくない言葉である。自立し始めた高校生が、親にいわれて勉強するものではないし、逆効果となることもある。子どもの学習の現状を保護者が知ることは大切だが、追い詰めるような言葉はぐっと飲み込んでもらつ。いいすぎはかえって逆効果であることも伝えたい。

中学校と高校の学習の違いを伝える
成績は相対的であることを説明する
生徒を追い詰めさせない

8

point

受験への理解を深めてもらう 全体会

学校・学年の基本的な受験指導方針
例えば「現役合格」「学校の授業を中心に合格できる力を養う」などの方針を説明し、そのうえで受験指導の流れを理解してもらう。3年次の場合は、より具体的に入試のスケジュールに対応した学校の指導体制、例えば志望校をどのように決めていくのか、センター試験後どんな指導をするのかなどを説明し、保護者の不安を解消する。

また、大学入試制度のしくみも保護者に大まかに理解してもらう。保護者に現在の大学入試に対する理解があれば、自分の子どもに対して、人生の先輩として進学、就職を見とおしたアドバイスが、より生徒の状況にフィットした形でできるだろう。親に「子どもが一番の理解者」になってもいいのは入試制度についてのある程度の理解も不可欠だ。

まず、4年制大・短大・専門学校の違いを知ってもらう。そのあと大学入試に関する用語（センター試験、2段

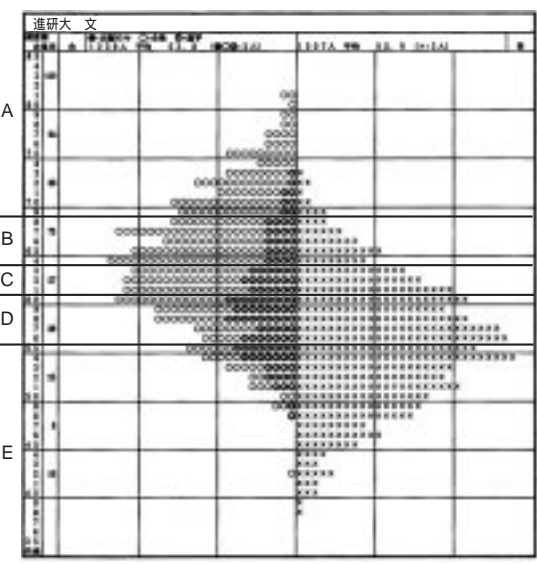
階選抜、個別学力検査、前期日程・中期日程・後期日程、方式別入試、地方試験など）を解説しながら、入試制度のしくみを理解してもらう。また、入試までの流れも示しておく。この辺りは内容が複雑なので、口頭説明だけでは済ませずに表などを使うと頭に入りやすい。また、最近は同じ大学でも学部によって所在地が異なることがあるので、志望学部のキャンパス所在地を確認するよう注意を促しておく。

志望校選択の際、保護者は模試などの合否判定を絶対視し、過剰反応する傾向がある。合否の度数分布を資料として渡し、現実には合格、不合格のラインは絶対的なものではなく、努力次第で志望校に合格できることを理解してもらう。合格者・不合格者の度数分布を見れば「合格と不合格の差はこの程度か」と実感してもらえははずだ。この理解があれば、子どもを「もう少しがんばれば、きつと合格に近づける」と前向きな気持ちで見守ることができ

るだろう。

なお、学費、大学生活でかかる費用は、当然保護者の関心事項だろう。学費については国公立大・私立大別、文理別、生活費については自宅・下宿別でどのくらいの差があるか説明する。保護者の学生時代には国公立大と私立大の学費に大きな差があったが、現在、特に文科系は差が狭まっていることを伝えておく必要がある。

志望校決定に関しては、親子が本音で話し合うことがなにより大切。私立大進学が可能か、下宿はOKかなどについて話をしておかないと、生徒は志望校・受験校を決定できない。受験ギリギリになって「うちは国公立大以外はだめ」と急にいわれても、生徒は途方に暮れるだけだ。少なくとも3年生の1学期ころまでには親子のくい違いをなくすようをお願いしておく。



度数分布
保護者は模試などの合否判定を絶対視する傾向があり、D、E判定が出ると、もう受からないと思いがちだが、実際には合否ゾーンは幅広く、D、E判定でも合格の可能性があるので、両方の保護者会に説明したい。

受験指導の方針や流れを伝える

現在の入試制度を説明する
入試の流れは表などで平易に説明
合否判定の意味を理解してもらう
学費などお金の情報も提示
志望校について子と話してもらう

9

point

保護者同士が話せる雰囲気をつくる クラス会

Point 1、2でも述べたように、クラス会は保護者同士のコミュニケーションに大きな意味がある。教師は、保護者同士が打ち解けて話し合える雰囲気作りを心がけよう。

例えば、席をコの字型にするなど、みんなで話し合える雰囲気にはどうだろう。堅い話題は全体会で取り上げておくので、クラス会では日常生活レベルに落とし込んだ、だれでも話に参加できて、しかも関心が高い話題を選ぶ。ただし、成績の話は避ける。多くの保護者にとっては生徒の成績は大きな関心事であり、悩みでもある。しかし、個々の生徒の成績に踏み込むと

「ここでは避けてほしい」という保護者が多く、その場の空気が冷めてしまう。進め方としては、年度当初のクラス会の場合は「自己紹介がてら子どもさんの家庭での状況を話してください」と順番に具体的な例を話してもらってはどうだろう。話題が具体的に話盛りがり、かつ役に立つ。「うちの子は家に帰るのが遅くて勉強する時間がない」といった話が出れば、「うちも同

じ」と共感する保護者もいるだろう。そして教師が「今、さんがこうお話しされましたが、ほかのみなさんはいかがですか」と司会進行役を務める。

生徒に兄・姉がいる保護者に、過去の経験談を語ってもらうのも、初めて高校生を持つ親にとっては役立つ。そうやって進めると、保護者全員が一巡するまでの間に、関心のあるいろいろな話題が出ることになる。

保護者から担任に質問が出たとき、その受け答えから保護者は担任の姿勢、熱意、性格などを感じる。質問に対して、できるだけ率直に答える姿勢を見せるようにしたい。

クラス会の所要時間は、全体会のあと1時間半くらいが限度。参加人数を考慮しながら、できるだけ多くの保護者に発言してもらえよう。関心の高い話題を取り上げたい。

成績の話は避ける
全員が参加できる話題を中心に
保護者に過去の経験を語ってもらう

10

point

部活との両立への不安を解消 クラス会

部活と学習の両立の問題は、保護者の最大の関心事の一つといっているだろう。全体会だけでなく、クラス会でもぜひ取り上げ、不安をとり除くようにしたい。

1年生の場合、トレーニングがハードな運動部だと体がついていけず、家に帰るとすぐ寝てしまう状態が毎日続いたりする。保護者は、部活が高校生活の中で大切な活動の一つであることを理解しつつも、「部活のせいで勉強する時間がない」「部活がきつすぎるのでは……」と心配になる。保護者には、生徒の体は成長段階にあり、1学期が終わるころにはかなり慣れることを伝え、不安があれば、顧問の先生に聞いてみましょう」とつけ加えたい。それだけでも保護者の不安は薄らぐ。

部活によって勉強時間が減るのは、厳然たる事実である。しかし、密度の高い学習と効率のよい時間の使い方を工夫することで不足分を補うことは可能である。それに部活をやめたところ、勉強時間が増えるとは限らない。そういったことを説明し、保護者が結

論を急がないようをお願いする。

しかし、2、3年生になると保護者は「受験勉強に差し障るのでは」と再び不安に思うようになる。特に初めての子どもだと様子がわからないので、いつそうその傾向が強い。ほかの保護者の生徒の兄・姉の体験談、例えば「上の子は部活はかりやっていたが、3年生の夏休みを境にがらりと変わって、勉強に打ち込むようになった」といった話は安心感を与える。また、教師から「うちの学校では3年生のこの時期に部活から受験勉強に切り換える生徒が多い」と説明するのもいいだろう。

いずれにせよ、部活をどうするかは、生徒が自分で決断するしかない問題である。生徒自身が壁にぶつかって自分からやめるといって結論を出すなら、うまく、親が無理やりやめさせても絶対にいい結果にならないことはいっておきたい。

次第に部活に慣れることを伝える
効率的な学習が肝要だと訴える
部活と両立させた体験談を紹介する